

第2次宍粟市地域創生総合戦略<PLUS DX>（素案）に関する意見・質問

【令和5年12月21日委員会事前提出分】

委員氏名	総合計画/ 戦略本編	PLUS DX 素案	基本施策/ 個別施策	意見・質問	回 答
西川 彩児	P78-79	P14	基本施策15：子育て支援の充実 ②地域や社会で子育てを支える体制づくり 定住重点戦略 【産み育てる】少子化対策	<p>②-2 地域の相互援助活動としてのファミリーサポートセンター新規【まかせて会員】数を増やすため、【まかせて会員】を個人に限定せず、法人（こども園・小学校近隣の法人が望ましい）に協力を依頼してはどうでしょうか。 （保険等の条件がある場合は、法人に依頼し、その社員等） 援助の内容によっては法人でも十分対応でき、また法人としても地域貢献事業の一環として対応が可能ではないかと考えます。 なお、「援助活動報告書」について、現在、手書きの紙の報告書になっていますが、報告等に関しデジタル化を推進していただけたら幸いです。【まかせて会員】として、援助以上に、報告書の作成（後日、【お願い会員】宅を訪問し、内容確認及び、署名押印の受領）、報告書のサポートセンターへの持参等の手続きが手間（負担）となっているように思えます。</p> <p>※別添資料あり 西川委員提供資料1__【援助活動報告書】（資料）</p>	<p>法人による地域の子育て支援への取り組みについては、協力会員の確保が難しくなっている現状からも、非常に有効な取り組みであると思われます。 現状のファミリーサポート事業では、法人会員の制度は想定されていないため、今後、研究を重ねながら実現の可否について検討していきたいと考えます。 また、援助活動報告書については、市への報告としてだけでなく、会員相互のトラブルを防止するための契約や領収など、会員相互の活動確認記録として作成しているものです。 技術的にはデジタル化も不可能ではないと思いますが、システムの開発コストやランニングコストを考えると導入に至らないのが現状です。 当該様式については、できる限り内容を簡素化し、会員の負担軽減に努めるほか、市への報告についてはデジタル化を検討して参ります。</p>
谷笹 摩弥	P78-79	P14	基本施策15：子育て支援の充実 ②地域や社会で子育てを支える体制づくり 定住重点戦略 【産み育てる】少子化対策	<p>ファミリーサポートセンターのさらなる充実を願う、もっと使いやすいものにならないか？（宍粟市は近隣市町に比較し安価であると思います。もっとPRしては） ファミリーサポーターの分母を広げるためにも、SNSを使用するなどして、例えばシルバー人材とのマッチング等は考えられないか？ 子育て世代のママは、近所の人に尋ねるよりはネット検索の方が身近なので、市のサービスがヒットしやすい環境をお願いしたい。</p>	<p>当事業の一番の課題は、協力会員（まかせて会員）の確保の難しさです。現状もコーディネーターが活動地区と活動内容をもとに支援者選定に向けたやり取りを繰り返し、何とかマッチングができていた状況です。今後は、共働き世帯の増加や就業年齢の高年齢化に伴いさらに協力会員の担い手不足が予測されます。 また、当事業は有償ボランティア制度であり、協力会員のご厚意のうえで低価格を維持できている状況です。 支援が必要な家庭に支援を確実に届けることができるように、効果的な広報に努めるとともに、将来にわたり持続可能で誰もが使いやすい事業となるよう制度研究に努めます。</p>

委員氏名	総合計画/ 戦略本編	PLUS DX 素案	基本施策/ 個別施策	意見・質問	回 答
山國 和志	P56-57	P17	定住促進重点戦略 【まちの魅力】選ばれるまちづくり 基本施策4：観光の振興	国内観光客はもとより、インバウンドの獲得のためにも、ホームページの多様化（中身を濃くする…穴場スポット、口コミ他）や多言語にも対応する。道の駅、又は団体が飲食できるような観光施設の整備。そういう計画はありませんか。	インバウンドに特化したホームページの整備は出来ていませんが、多言語には対応しております。観光情報の発信には、しそ森林王国観光協会ホームページの充実を図っており、見所マップやモデルコースなどの情報を提供しています。 なお、道の駅や飲食施設の整備については、場所や財源の課題もありますので、民間での参入を期待しております。
西川 彩児	P108-111	素案 追加資料 ①-2	デジタル基盤の整備 ＜行政のデジタル化＞ 定住重点戦略 【産み育てる】少子化対策	市民のためのP l u s D X推進のため、子育て世代の職員、介護世代の職員の方をはじめ、市役所職員の方の働き方の多様性を推進するため、在宅によるテレワーク、支所等サテライトオフィスによる勤務ができるよう総合行政ネットワーク（L G W A N）等を利用したテレワークの検討、また、クラウド利用による業務の効率化、ペーパーレス化を検討されたらどうでしょうか。 市役所内のDX化検討・推進が、市民のためのP l u s D Xにつながっていくと思います。 ※別添資料あり 西川委員提供資料2-1__【テレワークの推進】（資料） 西川委員提供資料2-2__【DX先進事例】（クラウド利用） 西川委員提供資料2-3__【新しい働き方推進プラン】（兵庫県）	テレワークができる環境は既に整備しており、コロナ禍には多くの職員が利用しました。今後、職員の多様な働き方のあり方の検討と合わせ、活用の研究を進めます。 支所等のサテライトオフィスに関しては、事務スペースの問題があり実現しにくいものですが、災害時などの緊急の対応では、いつでも事務ができる環境を整えます。 クラウドサービスは既に多くの業務で利用しており、今後も利用が広がっていくものと考えています。 ペーパーレス化の取り組みは、計画的に進めています。令和7年度には完全なペーパーレス会議を実現できるよう、必要な設備の更新などを進めています。